

〔重修本草綱目啓蒙〕芝二十 玉來日本紀 一名科名草群芳 菌蠶同上 不死草事物異名 三秀同上

頤莖事物 金堂同上 玉堂同上 龜藉同上 靈芝草訓蒙 靈芝原本草

五色芝ハ仙藥ニシテ尋常ノ品ニ非ズ其說ク所尤怪シク信ズベカラズ紫芝ハカドイテダケ波

カドデダケ長州レイシ京サイワヒダケ吉祥ダケマンチンダケ勢州ヤミノカミノシヤクシ州

チコジヤクシ江戸マゴジヤクシ奥州一名靈芝秘傳花鏡 紫靈芝原本草 紫達通雅 紫脫同上 處處ニコレ

アリ或ハ樹下ニ生ジ或ハ石間ニ生ズ一定ナラズ形松耳ニ似テ莖紫赤色ニシテ光リアリ蓋ハ

面黑褐色背ハキレナクシテ淺褐微白大小長短一ナラズ蓋多ク並ビ重リテ雲ノ如ナルモアリ

莖ニ枝アルモアリ皆堅硬ニシテ食フベカラズ其初生スル時ハ蓋ナク尖リテ筆頭ノ如シ漸ク

長ジテ蓋ノ形ヲナス赤褐色黃邊久シクシテ黑褐色ニ變ズ探貯テ蛙ミ易シ蒸過ス時ハ久ヲ經

テ蛙セズ

〔日本山海名産圖會〕芝俗に靈芝といふ一名科名草不死草福

形一本離れて生るあり又叢り生ずるもあり又一莖に重り生じてマヒタケのごとき物あり又

莖枝を生じて傘あるもあり又かさなく莖のみ生じて長三尺ばかりに枝を生じ鹿の角のごと

きもあり是鹿角芝といふ奇品にして先年伊勢の山中に出ず凡て芝の品類六百種計尙奇品の

物本草綱目に委し丹波にては首途を祝ひて是を饋る伊勢にて萬年たけといひて正月の辛盤

に飾り江戸にはチコジヤクシといひ仙臺にてはマゴジヤクシといひて痘瘡を搔くなり

〔延喜式治部〕祥瑞 芝草形似珊瑚枝葉連結或丹或紫或黑或金色或隨 右下瑞

〔日本書紀皇極〕三年三月倭國言頃者菟田郡人押坂直名將一童子欣遊雪上登菟田山便見紫菌

挺雪而生高六寸餘滿四町許乃使童子採取還示隣家總言不知且疑毒物於是押坂直與童子煮而

食之大有氣味明日往見都不在焉押坂直與童子因喫菌羹無病而壽或人云蓋俗不知芝草而妄言